

【児童への話】

1月も半ばとなりました。3学期の生活に慣れてきたでしょうか。今週金曜日は、節季で言うと「大寒」です。冬の寒さが厳しくなると同時に、春の訪れが感じられる季節となります。一日一日を大切に、穏やかに過ごしてくださいね。

さて今日は、「正直さと誠実さ」についてお話しします。

皆さんは、アグネス・ゴンジャ・ボヤジュさんを知っていますか？修道女としての優れた活動により、1979年にノーベル平和賞を受賞した彼女は、「マザーテレサ」の名前で親しまれています。今から113年前の1910年に生まれ、18歳から35歳まで、インドのカルカッタという街の学校で社会科を教える先生として過ごしたのち、カルカッタの学校に通えない貧しい子どもたちのために、街頭での無料授業を始めます。そして、今から26年前に87歳の生涯を閉じるまで、恵まれない人々のために奉仕活動を続けました。

マザーテレサは、素晴らしい言葉をたくさん残しています。ノーベル平和賞を受賞したときのインタビューで、世界平和のために何をすればよいかと聞かれたとき、「家に帰って、家族を愛してあげてください」と答えたように、「愛」という言葉がとても印象的です。でも、校長先生の心に一番深く刻まれた言葉は、次の言葉です。

「あなたの正直さと誠実さが あなたを傷つけるでしょう。

それでも気にすることなく 正直で誠実であり続けなさい。」

皆さんは、ウソをつかずに正直であること、ひたむきに正しい行為を続けることが、辛く感じることはありませんか？友だちの目が気になったり、頑張り続けることがイヤだなと思ったりするときも、きっとあると思います。それでも、正直であることや頑張ることが、皆さんのためにならないことは絶対にありません。マザーテレサの言葉は、「よいことをすることを、ためらわないこと」の大切さを教えてくれていると、先生は思っています。学校での学習や生活、遊び、お掃除や当番活動なども、これに当てはまります。「きちんとやること」「最後まで頑張ること」を、恥ずかしいと思わないでください。番町小の皆さんには、正しい行為を積み重ね、心を美しく磨き続け、人から愛される幸せな人生を送って欲しいと思います。今日は、「正直さと誠実さ」についてお話ししました。

【本講話について】

久しぶりの全校朝会です。少し長めの講話を用意しました。マザーテレサの写真を見せたところ、没後四半世紀以上が経っているのに多くの子が知っている様子で、とても感心しました。ノーベル賞の有無にかかわらず、人々から愛された偉人であり、その言動から学ぶことが非常に多くあります。今日はその中の「正直と誠実」についての言葉を、子ども達に伝えました。

正直と誠実を貫いても、辛いことがたくさんあるのが今の世の中です。長い人生の中、少なくとも小学校生活の中では、その正直さと誠実さが皆から認められ、自分の心や生活が豊かになる体験をさせてあげなければならないと思っています。そして、正直で誠実な人が報われる世の中になるよう、大人も含めて努力を積み重ね、社会全体を変えていかなければいけませんね。私自身、偉人から学ぶこと、そして内省することを続けていきたいと思っています。